

●●●●● 事業日程 ●●●●●

**1 ウォークラリー** ※雨天の場合は翌週  
 平成22年4月11日(日) 4月18日(日)  
 ☆クイズ形式のオリエンテーリングスタイル  
 スタート・各所 ゴール・津高

**2 ゴルフ大会**  
 平成22年5月9日(日)  
 会 場：グランシェロゴルフ倶楽部  
 競技方法：個人戦・ショットガン方式

**3 美術展**  
 平成22年8月3日(火)～8月8日(日)  
 会 場：三重県総合文化センター 第1・第2ギャラリー

**4 創立130周年・同窓会設立50周年記念講演会**  
 平成22年8月27日(金)  
 会 場：三重県総合文化センター 大ホール  
 講演者：理学博士・数学者 秋山 仁先生  
 (津高・津高PTA・津高同窓会の共催)

**5 海外旅行**  
 平成22年9月16日(木)～23日(木)  
 イスタンブールとエーゲ海クルーズ・アテネ8日間の旅

**6 母校の教壇**  
 平成22年10月3日(日)  
 会 場：津高教室・体育館

**7 経ヶ峰登山**  
 平成22年10月17日(日) 小雨決行

**8 国内旅行**  
 平成22年11月18日(木)～19日(金)  
 山陰方面・足立美術館をメインに欲張りな旅

母校創立百三十周年  
 津高同窓会設立五十周年



発行所  
 津市新町3丁目1-1  
 津高等学校  
 同窓会事務局  
 TEL・FAX 059-229-7331  
 共立印刷株式会社

津高後半の部	9	津高前半の部	8	三重桜の部	6	陳川の部	5	座談会	5	母校創立百三十周年同窓会設立五十周年記念行事	2
進路状況	11	各地で同窓会	11	親睦テニス大会	10	学年対抗ゴルフ	10				

津高同窓会ホームページ <http://tsuko.jp/>  
 (周年事業についても掲載)



# 「あいさし」

同窓会長 飯田俊司(昭和36年卒)



私は今年六月に百五銀行の取締役会長を退任し、相談役に就任しました。経営の第一線を離れ、残りの人生を趣

味の釣りを始め、旅行、読書、音楽などを楽しみながらのんびりした生活を目論んでいました。しかしながら、銀行の社会貢献活動の多くを会長時代同様に担うことになり、仕事6分、遊び4分となってしまいました。さて、同窓会活動の最大のイベントであります二十一年の総会・パーティーは八月一日に昭和51年・63年卒の幹事学年のご尽力により六百八十二人の出席者を迎えての開催でした。最年長は八十八歳、最年少は二十二歳でありました。陳川は三十七人、三重校は五十九人でした。

三重大学医学部軽音楽部によるジャズ演奏を楽しみながら、思い出話や近況に花を咲かせ、最後は恒例の参加者全員の校歌斉唱により、盛況裏に散会となりました。この原稿を書いているまさに今日が民主党政権発足の日であります。今回の政権交代は近現代の日本の政治の中で、明治維新、第二次世界大戦後に次ぐ第三の体制変革と言われている。

ます。本格的な二大政党制の幕開け、官僚主導から政治主導への転換、改革(リフォーム)から変革(チェンジ)への移行が期待される中、グローバル化の進展、少子高齢化という人口構造の変化、低炭素時代への対応など新政権は大きな課題を背負っての船出となりました。発足して間もない政権の政策運営の行方は選んだ国民の責任でもあります。大切なことは権利は主張するが義務や負担は出来るだけ回避しようとする社会風潮の中で、政治にはかり頼らず、自助の精神を忘れてはならないということだと思えます。

来年は県立津中学校が明治十三年一月二十五日に開設以来百三十周年、また昭和三十五年八月七日に陳川、三重校、津高同窓会統合以来五十周年を迎えます。本会報で検討中の記念事業が掲載されておりますが、懐かしい母校の雰囲気を感じ出し、楽しんでいただけたらと思います。それぞれ委員会を組成し鋭意検討しておりますので、是非とも参加いただきたいと思っております。

## 平成22年 母校創立百三十周年 同窓会設立五十周年記念行事

いよいよ平成二十二年に、津高創立百三十周年、津高同窓会設立五十周年という記念の年を迎えます。同窓のみんなが楽しめるイベントを各委員長が多数企画いたしました。

同窓のみならず各事業の実行委員長からの「お誘い」を読んでいただき、日時・申し込み方法をご確認の上、お誘い合せてお出かけ下さい。一緒に記念行事を楽しみましょう！

海外旅行は、平成二十二年九月十六日から八日間、トルコのイスタンブール・ギリシャのアテネを中心に観光し、豪華な客船で地中海クルーズをしながらクレタ島に足を伸ばします。全行程食事付きで厳選されたホテルです。普通の旅行では経験できないクオリティの高い旅行を企画してくれたのは、近畿日本ツーリスト四日市支店長、喜田理史(昭和54卒)さんです。

国内旅行は、JTB津支店榎本健太郎(平成7卒)さんが担当です。足立美術館をメインに山陰路を一泊二日の日程で旅します。

いずれの旅行も同窓生とその関係者ならごなでも参加頂けます。同封のチラシをご覧ください。お申し込み下さい。

総括周年実行委員長 瀬古 淳二

### ウォークラリー 四月十一日(日)

委員長 松島 明彦(昭和49年卒)

それぞれの出発地点で渡されるコマ図と呼ばれる部分地図を見ながらゴールを目指します。

その間いくつか設置されたチェックポイントで与えられる課題を解決し、想定された歩行時間との誤差をチェック

開催予定日 平成二十二年四月十一日(日)

(雨天の場合は四月十八日(日))

スタート地点

- ①津新町駅前 (津城址、西橋内中学コース)
- ②阿漕駅前 (みえ夢学園高校、伊勢街道コース)

集合出発時間

午前九時三十分から十時の間

ゴール地点 ①②いずれも津高校

申込み

津高同窓会事務局まで、ハガキ・メール・FAXで卒業年度・代表者名・参加人数・スタート地点を明記の上、お申し込みください。

申込み締切

平成二十二年二月二十八日

- 歩行距離は約5キロです。
  - 表彰式 集合写真撮影後に、解散
- (午前十一時半頃を予定)

# ゴルフ大会

## 五月九日(日)

大会委員長 竹林 武一 (昭和37年卒)  
 委員長 小柴 眞治 (昭和48年卒)

百二十五周年に引き続き、百三十周年もゴルフ大会を開催します。個人戦で実施致しますので、ふるってご参加下さい。

○進行 四ホール同時スタート  
 ショットガン方式  
 ○申込み方法  
 官製ハガキに左記の事項をご記入の上、お申し込み下さい。

日程 平成二十二年五月九日(日)  
 場所 グランシエロゴルフ倶楽部  
 参加費 一二、〇〇〇円

・名前・住所・電話番号・性別  
 ・生年月日・卒業年度・HC  
 ※ハガキ一枚につき一名のご応募をお願い致します。なお、同じ組で回りたい方、キャディーを希望される方は、その旨を明記して下さい。

(1Rプレーフィ・昼食(軽食)パーティ代・参加賞・賞品代  
 利用税・消費税含む)  
 キャディーを希望のパーティは  
 一組 一二、〇〇〇円別途

・申込み締切  
 平成二十二年二月二十八日  
 (定員になり次第締切)  
 問合せ・申込み先  
 津高同窓会事務局

定員 一六〇名

○競技方法

十八ホールストロークプレー

(ダブルペリア方式)

# 美術展

## 八月三日(火)～八日(日)

委員長 飯田 道嗣 (昭和28年卒)

表題の通り記念美術展を企画しております。

著名な各地陶芸家をバックアップし、そして自身もその一人となりました。

当校は日本洋画史に名高い藤島武一、鹿子木孟郎画伯を始め、若き一流の画家を美術の教師として迎え、代々秀でた指導のもと、優秀な人が輩出され、多くの画家が現在も各所で活躍中であり、又陶芸界でも西の粹人と言われた川喜田半泥子(明治33年卒)は、

美術はかつてオリンピックの種目として、世界各国が自国の文化のレベルを競い合った時代もあり、その精神は今も変わっていないと思います。

多くのの方々のご出品をお待ちしております。

多くのの方々のご出品をお待ちしております。



◆美術展応募要項◆

主催 津高同窓会(美術展実行委員会)  
 会場 三重県総合文化センター  
 (第1・第2ギャラリー)  
 会期 平成二十二年八月三日(火)～八日(日)  
 展示部門

- 第1部 (日本画・洋画)
- 第2部 (彫塑・立体造形)
- 第3部 (デザイン・工芸・陶芸)
- 第4部 (写真)
- 第5部 (書)

以上5部門で左記の要項により出品された作品を展示致します。

出品資格 津高同窓会会員(陳川・三重校・津高校の卒業生)及び客員  
 出品料 三、〇〇〇円  
 申込み締切  
 平成二十二年五月三十一日必着  
 申込み先  
 〒五十四〇八〇三 津市柳山津興六三三  
 「津高同窓会美術展」事務局  
 (飯田道嗣)  
 携帯 090-7850-7990

# 記念講演会

## 八月二十七日(金)

日時 平成二十二年八月二十七日(金)  
 十三時開場、十三時三十分開演

場所 三重県総合文化センター 大ホール  
 内容  
 〈オープニングセレモニー〉  
 〈講演〉  
 講師 秋山 仁先生  
 (理学博士・数学者、東海大学  
 教育開発研究所所長)

津高は、平成十九年度より五年間、スーパーサイエンスハイスクールの指定を文部科学省から受け、将来の有益

な科学技術系人材の育成を目指して

います。その関係もあり、数学分野で著名なテレビでもお馴染みの秋山仁先生をお迎えし、記念講演会を行います。

同窓生の皆さまにもぜひご参加いただきたく存じます。

●申込み  
 津高同窓会事務局まで、ハガキ、メールあるいはFAXでお申し込みください。

●定員  
 二百名になり次第締め切ります。

(この記念講演会は津高・津高PTA・津高同窓会の共催です)

# 海外旅行 九月十六日(水)～二十三日(水)

### ★イスタンブールと

#### クレタ島・アテネ八日間の旅

旅行の総費用を安くすること、質の高いホテルの確保、津高のOBにふさわしい「故きをたずね、新しきを知る発見の旅」であること等をコンセプトに企画書を幾度も書き直してもらい、作り上げた行程です。

- ①関西空港から出発
- ②イスタンブール観光
- ③イズミールへ
- ④クシタシから地中海クルーズへ
- ⑤豪華客船でクレタ島へ
- ⑥アテネの世界遺産観光
- ⑦デルフィ観光
- ⑧イスタンブールから関西空港へ

クルーズでは、ゴージャスな船の旅を楽しみ、海側のツインの部屋に泊まります。

アテネでは、アクロポリスの夜景が見えるホテルを、また、食事時は、民族舞踊や民族楽器フズキの調べを楽しみます。

詳しくは、同封のチラシをご覧ください。だき、近畿日本ツーリスト四日市支店(喜田)までお申し込み下さい。

TEL 059-351-4851

●申込み締切  
 平成二十二年五月三十一日

# 母校の教壇

## 十月三日(日)

委員長 葉山俊郎(昭和50年卒)

各界で活躍する津高同窓生と懐かしい恩師を講師としてお招きをし、同窓会員による、同窓会員のための、一日限りのスペシャルな授業カリキュラムをご用意いたします。題しまして「母校の教壇」。目からウロコや生きるヒントに溢れる授業を、我々が青春の原点でもある母校の教室で共に楽しみ、同窓生相互の交流を一段と深めようとの企画です。少しばかり襟を正しつつ、少しばかりノスタルジーに心を潤しつつ、肩の凝らない大人の授業をごゆっくりとお楽しみ頂きたいと思えます。



佐々木 敏(東京大学教授/昭和51年卒)、茨木政彦(少年ジャンプ前編集長/昭和51年卒)、中村安希(作家・開高健ノンフィクション賞受賞/平成10年卒)の皆様です。恩師は岩田直衛(世界史)、鈴木 茂(国語)、中川亮太(化学)、佐脇 功(数学)、北村治郎(地理)、小田海平(英語)の各先方です。

開催は平成二十二年十月三日(日)。

開催は平成二十二年十月三日(日)。各教室の定員の関係上、同窓会総会(八月七日)の席上にて詳細について最終のご案内をいたします。併せて同窓会のホームページでも最新情報を逐次ご案内して参ります。受講希望者は事務局までお問い合わせ下さい。

# 経ヶ峰登山

## 十月十七日(日)

委員長

保地 勝彦(昭和38年卒)  
若林 英郎(昭和40年卒)

我が青春のふるさと、時代が変わっても堂々とした姿をのこすのは経ヶ峰です。

多くの方々のご参加をお願いします。津高創立百三十周年を経ヶ峰登山と共に生涯の思い出にしてください。

津中、並びに県立女学校でも登山が毎年行われていました。もう一度その時を思い出し、皆さんと一緒に、青春回帰をしようではありませんか。山頂で食べるお弁当は特別な味に違いありません。山頂では記念撮影を行います。

下山後疲れを癒していただく催しも予定しています。

# 国内旅行 十二月十八日(水)〜十九日(金)

★山陰方面・足立美術館をメインに 欲張りな旅

足立美術館の絵画鑑賞は勿論ですが、付設する七年連続日本一を誇る庭園を散策する楽しい旅です。途中、日本の一〇〇名城の一つ津山城を訪ねます。夜には、世を越えて語り合つ宴会も楽しみます。

行程は、

津——中国自動車道——津山城(鶴山城) 見学——皆生温泉宿泊(皆生菊乃屋旅館)——足立美術館——中国自動車道——津  
費用 四一、〇〇〇円

詳細及び申込みは、JTB津支店(梶本)まで。  
TEL059-228-0203

申込み締切

平成二十二年七月三十一日

# 同窓会名簿発刊

★同窓会名簿『あゝ母校』

皆様、住所確認はがきなどでご協力いただきました名簿を、平成二十二年一月十三日に発刊いたします。刊行にあたり、個人情報保護の精神を十分に尊重するよう配慮いたしました。今回の名簿が、母校への郷愁を駆り立て、会員相互の架け橋となり、同窓会活動の活性化につながっていくことを願っております。

申込み先 津高同窓会

平成二十一年十二月末日までは(株)サラト(委託先)へお申し込み下さい。  
TEL0120-937-1613  
受付No.100111

# クリアファイル作成

創立百三十周年を記念して、陳川、三重桜、津高の校章や正門、津高の四季の風景等を印刷した、美しいクリアファイルを五種類製作致します。五枚一組を五百円で販売する予定です。ご購入よろしくお願致します。



生年月日・卒業年度・血液型  
申込み締切  
平成二十二年七月三十一日

参加申込み後に詳細を連絡します。  
参加資格 本校同窓生並びにご家族  
(年齢の制限はありません。)

# 母校創立百三十周年 同窓会設立五十周年記念座談会

母校創立百三十周年、同窓会設立五十周年の節目の年を来年に控え、今年の会報は、各年代の方々による当時の様子などをお話いただく座談会を開催しその要約を会報に掲載する事と致しました。

座談会では陳川の部、三重校の部、津高前半の部、津高後半の部と四世代に分かれてお集まりをいただきました。いろいろ楽しいお話を頂きましたが、紙面の関係上すべてを掲載する事が出来ず申し訳ございません。

例年ご投稿頂いている記事については本年は掲載いたしませんのでご了承下さい。

## 陳川の部

出席者

- 岡村 初博 (陳川・昭和15年卒)
- 岩崎 正博 (陳川・昭和18年卒)
- 鈴木 茂 (陳川・昭和20年卒)
- 石田 秀生 (陳川・昭和21年卒)
- 長谷川 寛 (陳川・昭和22年卒)
- 菅野 克也 (陳川・昭和23年卒)
- 塚澤 正 (陳川・昭和24年卒)

司会 古市 恒夫 (津高・昭和29年卒)  
津高同窓会会報編集委員長)

副司会

- 瀬古 淳二 (津高・昭和38年卒)  
津高創立百三十周年・津高同窓会設立五十周年記念事業委員)

司会 会報担当の津高二十九卒、古員長)

市でございます。紙数の関係でテーマごとにお話し頂きますので宜しくお願いいたします。

学校の様子

岡村 私は昭和十年入学、十五年の卒業で、古河からここへ移ってきて最初に入学した学年です。津高百三十年は津の市制百二十年より十年早くそれだけに重みがある。津中の講堂は同窓会の寄付で建てられ、寄宿舎も整い恵まれた環境にありました。昔の中学でプールが出来たのはおそろしく三重県で初めてだったと思えます。伝統のある学校に入ったことを今も誇りに思っています。

菅野 生徒は通用門から入りますが、正門の前にはヒマラヤシダーの植



込みがありその向こうに品格のある本館が建っていました。

長谷川 空襲で焼けた直後の武道場ですが、床下に襦がぎっしり敷き詰めてありました。道場内の音響効果を図ったものと思います。

岡村 柔道の公文先生たちが関与され

たものかも知れません。明治以来の伝統がそれを可能にしたんやと思えます。

名物先生

鈴木 古い校舎には藤島武二の絵とか高名な先生の絵が掛かっていました。先生方は全国各地から来ておられました。

岡村 バンブー、竹内省三先生は小浜で、たるさん、竹村利夫先生は飯田の方でした。

鈴木 その頃の先生は、長谷川素逝先生が職員室に見えたせいか俳号をお持ちの方が多くVチャン(後藤義之進先生)は経峯、スミさん(寺田重雄先生)が鉄長、ヤギさん(林義明先生)が所月でした。

石田 入学した時、代数が岡門之助先生で黒い詰衿の服を着ておられたので、岡先生と同じ服装の伊藤太郎先生、孔子さんですな、このお二人は用務員さんやと思っていました。

夏になって上着を脱がれた時びっくりしたのですが、お二人ともベルトをせずにズボンの上に兵児帯を締めておられました。

一同 お話に出た諸先生はじめ、ニコチン(一見先生)野田彦四郎先生な



昭和10年新校舎竣工

ど、思い浮かぶすべての方が情熱をもった個性豊かな先生ばかりで、全員が名物先生であったと思います。

出来事

石田 私は長谷川先生と同じ昭和十八年の入学ですが、戦前戦後の教育制度の混乱と言いますか学業年限の変更とその臨時措置で、昭和二十一年・四年卒業の六三期と昭和二十二年・五年卒業の六四期に分かれております。

長谷川 津高同窓会の世話を仰せつかって長年担当教師をしておりましたが、

この中で一番心に残る仕事は津高百年誌の編纂です。特に資料が焼失しているため大変苦労して集めました。鈴木先生にもご尽力いただきましたが、お陰様で後世に残る立派な記念誌が出来ました。関係資料を大切に保存し次の世代に伝えてほしいと思います。

鈴木 昭和二十八年に山口誓子作詞・信時潔作曲の津高校歌が成立しましたが、歌詞の最初の原稿が見つからない。そこで「自宅を訪ねて書いて頂いたのが校長室に掲げてある校歌です。大きな紙幅で雨も降ってきて運ぶのに苦労しました。陳川の校歌についても触れておきますと、作曲は「存じ」の広田龍太郎先輩で大変有名ですが、作詞の大須賀績(おおすがいさむね)も高名の方で、広田先輩・信時潔とのコンビで多くの校歌を作成しておられる。俳壇でも乙字の俳



奉安殿前の神饌田

号で活躍された方です。福島の人、東京帝大卒。津高の歴史のごとくに記録しておきたいことの一つです。思い出

鈴木 生徒動員が一番懐かしいですね。『五年生は明日から授業がないのやげな』というところで喜びました。学校へ来ると他所へ行くらしいというところで行きましたのが現在の津球場、当時の東洋紡績でな。これが三重工業株式会社になりました。ここで機関砲を作っておりました。その機関砲が津中の校舎に置かれていたのをアメリカのスパイが覗んでおってここを爆撃したという噂でした。

石田 二年先輩の鈴木先生方は三重工業へ、一年先輩は江戸橋の三菱重工業、今の近江絹糸の所へ動員になって、僕らだけが四日市の三菱重工業へやられ、全員寮生活が始まりました。その後、半分ぐらいが名古屋の大江にある三菱重工業に分かれ、大地震や空襲にあつて四日市に戻り、更に四日市を焼かれて三重工業に行き、ここが空襲に会ったとき伊藤太郎先生と一緒に海へ逃げました。先生と並んで松の根方で震えていました。次に飛行機のエンジンを作っていた高茶屋の海軍工廠に移りましたが、製造用の資材がなく、広い敷地内の薩摩芋畑で草取りをする毎日、終戦の日は炎天下に直立して雑音ばかりの終戦の詔勅を聞いておりました。

菅野 私たちの場合は動労奉仕でいろ

んな所へやられました。津市半田・磨き砂山の掘削作業が記憶に残っています。強制労働に従事している朝鮮の人達と、津中と津工業の三年生による作業で、磨き砂の掘削跡にコンクリートを吹きつけると直ぐ固まる点を利用した地下工場の建設です。総延長四〇キロ、トラックが入りする広さがあり、ドイツ製の旋盤など高性能な機械が設置されていました。掘り出した磨き砂の上を草や木でカモフラージュするのですが上空からはまる見えで、爆撃にもあいましたが地下工場内に異常はなく、かえってこれが自慢となりました。

### 三重桜の部



出席者 山下 郁子(昭和18年卒) 奥山美登子(昭和19年卒) 樋口 怡子(昭和19年卒)

樋口 怡子(昭和19年卒)

夢を憧れを!

岩崎 私は鈴鹿に住んでおりましたが津中は憧れの学校で、自分なりに努力をして無事入学でき、少年の夢がかないました。

岡村 岩崎さんのお話のように津中は少年の夢であり憧れでした。本校で学んだことは生涯を通じての誇りであり、災害などの不時に際し、或いは全校挙げての祝賀行事に対し、強い連帯感が母校への支援となって表れています。津高が少年少女たちの憧れであり続けることを期待します。(文責・塚澤 正)

(八月二十六日)

- 福島 和代(昭和20年④卒)
- 川嶋 圭子(昭和22年卒)
- 村木巳代子(昭和22年卒)
- 猪木 千里(昭和23年卒)
- 後藤 日出(昭和20年・26年卒)
- 中川美和子(昭和20年・26年卒)
- 古市 恒夫(昭和29年卒)
- 三浦 義秀(昭和37年卒)
- 撮影 山田 郁子(昭和20年・26年卒)
- 記録 落合ひで子(昭和21年・27年卒)
- 山下 十八年の卒業です。戦争の影響を少しうけながら、厳しい規則の中でも女学生らしい楽しい学校生活を送ることができたのは私達までだったよつです。最も懐かしく思い出されるのは修養日誌の事です。一週間



三重県立高女明治36年の卒業写真

に一度担任の先生に提出するのですが四年からはこれを毛筆で書かなければならないのが大変苦痛でした。当時の制服はセーラー服にスカートでした。スカートの裾は床から三十五センチと決められていました。ウエストに銀色に輝く三重桜の校章をつけ三重桜の校章の入った肩掛けかばんをもち、通学しました。校章をウエストの位置に着けたのは袴に着けた名残りです。奥山 十九年卒業です。私達の学年から定員が二〇〇名になり、五十人バカが入ってきた、と言われました。よく騒ぐ、勉強をしない、言う事を聞かない!と卒業するまで言われました。私達から制服がスフイりの生地になり、日に焼けると濃紺だった制服



三重県立高等女学校正門

川嶋 ブルーマーは三年生が作って下さるといふ慣例があり嬉しく着用さ

奥山 ランドセルはボール紙が芯で外側に黒い布が貼ってありました。修

が灰色のドロンとした無残な姿になりました。夏休みにこれを全部ほどいて裏返し、白線も丁寧にはずして縫い直しました。

福島 十六年入学。私たちの学年は竹組、タスキは水色でした。当時、県立津高女は五年制で、各学年に名称があり、梅、菊、松、蘭、竹とそれぞれ入学年次がわかるようになっていました。その年の暮れ、十二月八日、真珠湾の奇襲で日米戦争が始まりました。二年生になった頃、セーラー服に赤いネクタイの制服は廃止、もんぺと白い丸衿の上着で全国統一の制服になりました。

川嶋 道で男子生徒と出会っても目を合わせてはいけない等、大変厳しい決まりがありました。通学電車も前が男子、後が女子と決まっています。

奥山 「げんりつ」の生徒三十三人がこの空襲で亡くなりました。

樋口 毎月一回、和歌の時間があり作品を毛筆で清書して提出しました。竹組の田中よし子さんが宮中の歌会始に入選されました。今でも和歌や俳句に親しみを覚えるのはこの時の

学旅行に行ったのは、私たちが最後だったようですが皇居外苑の清掃でした。宿で初めて食べた外米は細長い米でしたが臭くて誰も食べられなかった思い出があります。

福島 授業も次第にお粗末になり勤務奉仕と称して農家の手伝いに行ったり、運動場は開墾して芋畑や南瓜畑になっていきました。

奥山 稲刈り、麦刈り、開墾そして紡績工場で糸屑とり、布団作り等の作業です。

樋口 開墾は初めての事でしたが得難い経験だったと思います。

奥山 英語の授業は五年で廃止になりました。

高等科ができました。四年修了で入る事ができ、二年勉強すると小学校の教員免許がもらえました。

奥山 香良洲リレー、経ヶ峰登山などが恒例の行事でした。

思い出に残っている事といえば四年の時の運動会です。得点順に学年の旗が掲げられるのが恒例なのでこの年は私たち松組の旗が一番上に上げられるはずと皆がワクワクしながらその時をまっていたところ、一番上にあげられたのは五年梅組の旗だったので、皆がブンブンになって怒ったことです。担任の岩尾先生が「大人の考えがあるんじゃない」と言われた事を思い出します。

奥山 昭和十九年の冬、東南海大地震があり恐ろしい体験でした。地震の情報は今全く知らされず紀南の天津波もずっと後で知りました。

川嶋 水道管が破裂したり家の焼け広がるのを目の当たりにして、本当に怖い思いをしました。

空襲でも恐ろしい思いをしました。爆弾が落ちる時の(ザツツ)という音、機銃掃射をつけた時の恐ろしさ等、今でも忘れられませんが、白い歯まで見えていました。この時学校に来ていた人は難を逃れましたが、家にいた人が亡くなる等、悲しい思い出です。



手旗信号の稽古 (昭和17年)

中川 私達は二十年入学です。戦局が厳しい中、空襲警報のサイレンがなると試験を中断しながら……という入学試験でした。終戦を迎えてから九月の事ですが大塚先生が授業の始めに机に手をつけて「間違った事を教えてしまった」と深く頭を下げられた事を思い出します。教員になっ

猪木 別所先生との出会いがなかったら私は体操の道には進みませんでした。陸上部に入ろうとした私に「あなたはコンパスが短いから此方が向いていると思う」と言っていて器械体操をすすめて下さったのです。第二回国体(金沢)第三回国体(福岡)に出場しました。

中川 戦後の教科書は墨をぬってどの頁もほとんど真っ黒で読めるところは一部分というシロモノでした。

後藤 上級生はたとえ一年だけ上であっても皆、大変立派にみえました。廊下ですれ違う時などわきにのいて軽く頭をさげた記憶があります。先生や上級生には畏敬の念がありました。本庄先生に作法室で襖の掛け方や畳の上の歩き方など日常の作法についていろいろ教えて頂いた事を未だによく覚えています。

中川 本庄先生が靴下は継いであったも色が揃っていなくても少しも恥ずかしい事ではない、大事に履きなさいと言われたのを思い出します。

後藤 今の若い人の生活を見てこれでもいいのかな?と思う事がしばしばです。

猪木 戦後は諏訪根自子さん等、著名な音楽家が多数、津に来られ演奏会に学校から連れていって頂きました。

福島 竹島先生(おたけさん) 歴史の

てから子供には決して嘘を教えるはならない、と心に決めた所以です。

後藤 入学して間もない頃に髪をくくるように厳命されました。

奥山 私達も一年の頃高畑校長に朝礼の時「必ず全員明日までにくくってこい!」と言われ、皆が黒いゴム紐を買いに近くの小間物屋さんを押し寄せた記憶があります。竹島先生が「雀のシッポや!」と言って大笑いされました。

中川 戦後の教科書は墨をぬってどの頁もほとんど真っ黒で読めるところは一部分というシロモノでした。

後藤 上級生はたとえ一年だけ上であっても皆、大変立派にみえました。廊下ですれ違う時などわきにのいて軽く頭をさげた記憶があります。先生や上級生には畏敬の念がありました。本庄先生に作法室で襖の掛け方や畳の上の歩き方など日常の作法についていろいろ教えて頂いた事を未だによく覚えています。

津高前半の部

大塚先生(23度半) 数学の本荘先生(ビール) 国語の竹内先生(でっさん) 等など。懐かしい先生方です。伝統を誇った県立津高等女学校の名もその後の学制改革で新制高校に替わり、県立津中学校と合併し、男

女共学になり、現在に至っています。昭和二十年八月十五日の敗戦から、僅かな間のできごとであったようです。歴史の移り変わりは全くどきどきの変化なのだといつづつ実感しています。(八月二十八日)

出席者 古市 恒夫(昭和29年卒)

家令 和子(昭和29年卒)

田中 弥(昭和30年卒)

小倉 芳子(昭和32年卒)

奥田 榮子(昭和34年卒)

奥井 明男(昭和36年卒)

三浦 義秀(昭和37年卒)

保地 勝彦(昭和38年卒)

当時の様子

家令 入学当時は東校舎と西校舎に別れておりました、私たち一年生は東校舎、昔の県立高等女学校の柳山校舎で窓ガラスも割れていて、暑いぶん寒かった思いがあります。翌年からは現在の校舎に移りました。

田中 私は高野尾出身ですので自転車で約五十分かけて通学していました。もう校舎が分かれていることはなく、大変明るく自由な雰囲気な学校だと感じていました。

入学時にはまだ体育館がなかったのですが、文化祭の行事は新町小学校の講堂で行われ、弁論大会がありました。体育館は昭和二十九年十一月に出来ましたが、十三号台風で大きな



被害が出て、予算が削られ小さくなったと聞いています。

小倉 私が入学した年に図書館が出来ました。また、昭和二十八年に津高が甲子園に出場し体育が盛んでした。私も陸上競技をしておりました。生徒会の選挙では応援演説になかなか凄いいものがありました。

古市 甲子園に出場した当時の監督は岡村初博元津市長でした。初めての甲子園は、開会式当日の

第三試合でしたので三重会館を夜十二時ごろに出発して開会式から観戦しました。試合は二対一で宇都宮工業に敗れましたが良い思い出です。

田中 当時は、三岐大会があり岐阜県のチームを破って出場したのですが、当時の岐阜のチームには後にプロ野球選手として活躍した、阪急の梶本選手とか、巨人のキャッチャーの森選手などがいて、そのチームを破って出たのですからすごかったと思います。

奥田 私は昭和三十一年の入学です。甲子園のことは存じませんが、津球場での開会式に旗を持って行進したことが思い出されます。また、毎週体育館でアセンブリーがありました。当時朝日新聞の論説委員を招いた講演会がありました。生徒からどんどん質問が出て議論百出で皆さん凄いなと思いました。

奥井 私は三十三年の入学です、自宅は新町でしたので学年で一番近くから通学していました。また、非常に自由な学校で下駄履き登校の生徒もいました。帽子はかぶっていましたが服装は自由でした。

保地 私が入学したのは昭和三十五年です。出身は美濃町の雲林院と言ったところです。同じ中学校からは私一人が入学しました。当時は六十年安保の時体育館で激しい議論がありました。田舎者の私にとっては、津高というのはなんと進んだ学校なのだ

ろつと思いました。三浦 私は昭和三十四年の入学です。この年の秋に伊勢湾台風が来ました。朝学校へ着いた時にはすでに膝位まで水が来ていました。当時は暴風警報が出たら休校という制度がなかった。学校へ着いてから先生に今日は帰っても良いといわれました。今だと考えられないことです。

また、保地さんが言われましたが六十年安保の年の三学期にデモに参加しました。授業中だったので戻ってきて先生にお叱りを受けた思い出があります。

家令 文化祭も運動会もすべてが生徒会の主催で行われていて、何もかも自分たちで行いました。ファイヤーストームも楽しい思い出です。保地 運動会では仮装行列があり、文化祭の前夜祭ではファイヤーストームを囲んで、校歌や応援歌、凱歌などを歌って楽しみました。おかげで歌もいろいろ覚えることが出来非常に良かったです。

なんとと言っても、一番の出来事は津高本館の火事です。朝、学校へ着いたら学校がなかったのは驚きでした。三年生の十二月でした。その後体育館を間仕切りして授業がありました。

名物先生 田中 津中や県立高女から来られた先生は特色のある先生が多かったですに思います。特に米本先生(ジャジ



昭和28年甲子園初出場での入場行進

さんには国語を教えてください、良い点お陰で国語が好きになりました。

小倉 先生のお手伝いをして、良い点数を頂いた事がありました。先生方と生徒との間にはなんとなく信頼関係があったのではないのでしょうか。

奥田 英語の岩永先生を思い出します。当時例文を必ず聖書の言葉から出され、当時の私には程度が高く、十分理解できたとはいえないのですが大変感動した思い出があります。

奥井 先生にはスリッパ、カップ、コックパ、ミクロン、モテンなどユニークな渾名がついていました。どの先生方も個性豊かな方ばかりで津高で学べた幸せを感じています。

保地 生徒の質問も鋭いものがあり先生を困らせたこともありました。私



はボート部に居りましたので顧問の  
島川先生にずいぶん可愛がってもらっ  
たの思い出します。

学年の同窓会は

小倉 卒業後の集まりはインターネッ  
トで連絡を取り合っています。年一  
回集まっています。八十人ぐらいは  
集まります。名目はパソコン教室で  
す。東京と大阪にも学年会がありそ  
れぞれ出席は自由です。

保地

三十八年卒業ですのでサンパチ  
会と称して山の会、囲碁会、飲み会  
などをやっています。私が主催して



いるのが山の会と囲碁会です。高校  
時代の友人は皆素晴らしいし、非常  
に良いものだと思います。

奥井

私達は三六会と称して集まっ  
ています。男性で品位があることが条  
件になっていて、二ヶ月に一回集まっ  
ています。全体の同窓会の幹事年の  
時は三六会があったのでスムーズな  
運営が出来ました。また、津高で素  
晴らしい友人に恵まれたことは、一  
生の宝になっています。

三浦

一期一会にちなみ「いちいち会  
」と言う集まりをしています、七人で  
始めた飲み会です、毎月やっています、  
約二十六年続いています。現在は十  
二人になりました。毎回の記録をノー  
トにとっていますので当時話題になっ  
た事が良くわかります。

奥田

オリンピックの年に同期会を開  
いています。六十歳の還暦同期会か  
ら一泊の会をしています。その他東  
京に学年の支部会があります、東京  
支部は毎年行っています。大体一泊  
旅行で、希望者は三重県はもちろん  
各地から参加しています。

津高で学べたことを幸せに思っ  
ています。  
(八月二十九日)

津高後半の部

出席者

- 吉村 利昭 (昭和39年卒)
- 宮崎由紀子 (昭和41年卒)
- 岡村 伸博 (昭和45年卒)

- 高井 郁子 (昭和49年卒)
- 大萱 隆久 (昭和51年卒)
- 井ノ口 貢 (昭和53年卒)
- 小野 裕子 (昭和53年卒)

宮木 辰子 (昭和57年留学・58年卒)  
中北 雅文 (平成5年卒)

司会

高畑 茂生 (昭和45年卒)

吉村

39年卒は、昭和二十年生まれで、  
服装は結構地味でした。ほとんどが  
学生服を着ていました。

高井

四十九年に学生帽がなくなり、  
津高の校章バッチを付けることになっ  
た。カバンには津高というスタンプ  
が押しあつた。

岡村

週一回、体育館でアッセンブリー  
があつて、服装の自由化もテーマの  
一つだった。

中北

逆に学生服や帽子をファッション  
ンとしていた。ただ、オーバーオー  
ルは禁止だった。

井ノ口

服装は自由やった。ジーンパン  
でもOK。

司会

昭和三十七年に学校が焼失し、  
体育館で授業をされていたと聞いて  
いるが、どうでしたか。

吉村

プレハブが二棟運動場側に建て  
られ、中庭の西の木造校舎が職員室  
になっていた。体育館を使っていた  
のは下の学年だったと思う。

高崎

41年卒は体育館に十教室があり、  
ベニヤ板の壁で換気扇はあつたが、  
暑くて暗い教室だった。団塊の世代  
で七四〇人おり、体育館のクラス以  
外はプレハブだった。三十九年に新  
校舎が建つたが、学び舎を優先した

この説明をすくく聞いた。  
司会 それでは、名物先生について伺  
います。



高井

島川先生でしようね。私たちの  
頃までは、同じ先生が長いこと見え  
ましたね。父も母も担任をしてもらっ  
たという先生がいました。

大萱

みえ国体の時で、新規採用の先  
生がパチンコ屋で高校生と間違えら  
れたと聞いた。

吉村

国語の村瀬先生に、卒業の時  
志を募って革の新調のスリッパを贈  
呈しました。廊下を歩くときはスリッ  
パをばたばたさせていました。

宮木

私たちの時は桜木先生です。漢文  
を教えてもらい、今日は詩吟にしま  
しょうと歌ってくれた。

高崎

桜木先生は修学旅行の時の担任  
で、旅行中に、私の組だけ先生が集

合時間に遅れた。申し訳ないので他  
のクラスに先に行ってもうた。

岡村

数学の若林先生が思い出される。  
アイスクリームを食べて川で授業を  
した。

吉村

社会の小出先生は、講義するど  
き落語のように机の上に座ってやっ  
ていた。

高崎

二年の時に、地学の辻先生と音  
楽の阿南先生が学校前の横断歩道で  
新年(一月十日)に交通事故にあつ  
て亡くなった。阿南先生は、三重大  
を卒業してから東京芸大へ行って新  
任で津高にこられた。まだ一年も経  
たないことで、事故の後、婚約者の  
方が東京から来て、替わりに音楽の  
授業をしてもらいました。二年と三  
年の時もだった。

高井

国府元校長先生は知人の通夜の  
帰途、後から来た車にはねられて  
亡くなっていますよね。ファンも多  
かったと聞きます。

吉村

国府先生は、東南アジアで戦争  
体験があり、正義の味方の怪傑ハリ  
マオーの話が授業中によく聞かされ  
ました。

高井

地学の田端先生の1学期の中間  
テストは白紙かと思つたら、「地球  
の構造について同じぐらいの文字で  
書け」と小さい文字で問題が書いて  
あったので、大きな絵を描いて解答  
しました。

司会

三年間を振り返って思い出に残っ  
ていることをお願いします。



文化祭でのファイヤーストーム

高井 修学旅行は、東北、奥の細道紀行。旅行委員会で行程を組んだ。遠足も二クラス以上ならいいというので、信州方面へ選択コースだった。宮崎 晝寝で夜行。別府から船で帰ってきた。

岡本 行きが船だった。阿蘇が噴火した。

宮崎 私は放送部だったが、火事で校舎がなかったので、運動会で放送した。練習ばかりしていた。卒業前にやっと設備が整った。

吉村 勉強は楽しくなかったが、みんなの休み時間や学期末のレクリエーション大会では、全校のミニ駅伝のクラス対抗があって、ゼッケンに「ファイターでいこう！ロビンソン」を書いていたりした。楽しい学校生活だった。焼失後の木造校舎で寒かったのでジュースをかけて「どんま」をした。

高井 生徒会やいろんな委員をやり、演劇部だった。米本先生にはもう顧問はしないとされた。リベラルで、まじめでいい学校だったと思います。大萱 自由な校風が一番思い出にある。高校に入ってこんな自由な学校はないと感じた。自己責任の上に立った自由、成績はおまへの責任だと自由にさせてもらった。

井ノ口 津高校を目指したわけではなく、二群を受験した。津高生であることにプライドを持ってもらえるのを感じる。ほとんどバトミントンクラブの思い出しかない。

小野 二群の二期生で、運良く津高校

た。今の人たちに比べると単純で、まじめでした。

小野 先輩達の話の聞くと、自由で活力があったと感じます。自分らの時は、規則が決められたり、締め付けられてきた。

宮崎 普段の暮らしが楽しかった。たった一人、ヒールを履いたり化粧をしていた子がいたが、誰もまねしないので、取り締まらなくても広がるなかった。本人の裁量に任されていた時代でした。

岡村 三年間、バスケットボール部で一生懸命やったが、インターハイの決勝で四日市工業に負けて全国大会に行けなかったこと。中川先生が顧問で前年の新人大会では優勝していた。今とは違い、当時は練習中でも水が飲めなかった。

高井 生徒会やいろんな委員をやり、演劇部だった。米本先生にはもう顧問はしないとされた。リベラルで、まじめでいい学校だったと思います。大萱 自由な校風が一番思い出にある。高校に入ってこんな自由な学校はないと感じた。自己責任の上に立った自由、成績はおまへの責任だと自由にさせてもらった。

井ノ口 津高校を目指したわけではなく、二群を受験した。津高生であることにプライドを持ってもらえるのを感じる。ほとんどバトミントンクラブの思い出しかない。

小野 二群の二期生で、運良く津高校



## 第二回津高同窓会学年対抗ゴルフ大会

中村 芳夫(昭和41年卒)

去る三月二十九日(日曜日)、第二回津高同窓会学年対抗ゴルフ大会が、昨年に引き続き三鈴カントリー倶楽部で開催されました。当日は、天候にも恵まれ、26年卒の大先輩から54年卒迄の内18学年、参加総人数一四九名の盛大な大会となりました。我々41年卒は、大阪、愛知からの参加者も募り、三組十二人のエントリーを行なうことができました。卒業以来、四十年以上会っていない人も交え、それぞれが和気あいあいと近況を語り合いながらの楽しいゴルフとなりました。

梅本 貞治(昭和32年卒)

津高同窓会親睦テニス大会が、初めての試みとして、十月十八日(日)津高テニスコートで開催されました。OB三十二名、現役の生徒二十二名の参加を得て、秋晴のもと楽しい一日を過ごしました。昭和二十六年卒業の方から、平成一桁生まれの若い人まで、技術、実力は千差万別ではありましたが、年配の人は、それなりの経験を生かし、若い人は、力感あふれるプレーの中にも、年配の方への配慮を忘れずに、ゲームを進

又、プレイ終了後、飯田同窓会会長にご挨拶をいただき、表彰式が行われました。

個人優勝に我々41年卒の国分一美さんが、団体戦についても吉永英利さん、富増和宏さんの活躍もあって見事優勝することが出来ました。

団体戦

優勝	41年卒	209・8ストローク
(上位3名のネットスコア合計)		
2位	37年卒	213・8
3位	38年卒	214・4

来年以降も、このような機会をつくっていただく事を期待しております。

八チームに別れた団体戦で、優勝を争いましたが二位以下は大接戦で、参加者の実力不明の中、適当に編成したチーム構成のもとでの試合でしたが、よい結果が、得られたと考えられます。

井村屋製菓(株)様からのご好意(肉まん、あんまん、あずきバー等)を頂きました、皆様には好評。来年も是非やりたいという声を聞きつつ、大会を終りました。

(九月五日)

名古屋同窓会

各地で同窓会開催

本年度の名古屋同窓会は、九月十二日(土)名古屋東急ホテルにて開催されました。同窓会本部より飯田俊司会長、田川敏夫副会長、事務局佐々木とし子様、津高より渡辺久孝校長先生をお迎えして二七名の先輩後輩がにぎやかに集いました。

総会に先立って本年度は、日仏シャンソン協会名誉歌手会員である、真路まなみ様(昭和54年卒)によるコンサートが行われました。時に語りかけるように、時に体の奥から振り絞るように歌われたシャンソンの数々。「人生の辛い時、私には歌があった」という言葉とともに聴く者の心に染みしました。



その後総会、懇親会が行われ、恒例の津高クイズで、楽しさ、にぎやかさも最高潮に。最後に、全員がかつての津高生に戻って校歌を斉唱し、来年もまた、この思いを胸に閉会となりました。伊藤知里(昭和53年卒)

大阪同窓会



第四十三回津高大阪同窓会は、十一月八日(日)午前十一時から、大阪駅前第一ビル・神仙閣にて行われ、同窓会本部から、飯田俊司会長、瀬古淳一副会長、事務局担当の打田一馬先生、津高より渡辺久孝校長先生、恩師の飯田宏先生、鈴木達哉先生をお迎えし、会員百五十七名が出席し盛会に行われました。

進路状況

進路指導部 土方清裕

総会では、奥田務津高大阪同窓会長、各(来賓)の挨拶の後、歯科医の岩名淳一郎氏(昭和38年卒)による「歯は、エライ！」という演題で講演が行われました。その後、長谷川辰王氏が、九十三歳とは思えぬ張りのある発声により乾杯の音頭をこられました。会食、懇談のあと、難波千里氏(昭和38年卒)が率いる「アンサンブル池田」による生演奏に合わせて、会場が最高の結果を残す大健闘をしてくれました。この結果を踏まえながら、これからも生徒の思いを大切に、努力をしてまいります。今後ともご指導よろしくお願いたします。

(大学合格者数)

Table with 5 columns: 国立, 公立, 私立, 短大 and 4 rows of data for years (2009)H21, (2008)H20, (2007)H19, (2006)H18.

(進路状況)

Table showing career status by university for various years, with columns for different institutions like 北海道, 東北, etc.

Large table showing career status by university for various years, with columns for institutions like 京大, 大阪府立, etc.

鳥居義昭(昭和38年卒)

「一つになって合唱し、「校歌」「故郷」を斉唱し、来年の再会を約して閉会となりました。今年の企画は、昭和38年卒が担当しました。



左の八月一日(土)、「Memories of

# お知らせ

## 平成二十二年度 同窓パーティー

日時 平成二十二年八月七日(土)  
午後三時より

場所 津都ホテル

津センターパレスホール5階

テーマ 輝け！永遠に  
くもつと☆ずっと☆きつとく

担当学年幹事

昭和52年卒 (代表 西城 昭二)

平成元年卒 (代表 宇陀 和彦)

## 平成21年度の

## 総会・パーティーを終えて

運営委員会副委員長 松本 哲治 (昭和63年卒)

You (思い出音楽ととも) のテーマの下、津センターパレスホール・津都ホテルを会場に、平成二十一年度陳川・三重桜・津高同窓総会・パーティーが、六八二名の会員を集めて、盛大に開催されました。

総会では、物故会員への黙祷の後、大嘗運営委員長による開会の辞、飯田会長のご挨拶および渡辺校長によるご挨拶と続き、来賓のご紹介と田川副会長による同窓会本部からの報告が行われ、最後に、本年度は百三十周年を控えているため、記念事業についてのPRが、瀬古副会長によって行われました。

パーティーは、三重大学医学部聴音

## 平成二十二年度同窓会

実行委員長 西城 昭二 (昭和52年卒)

来年度、津高は創立百三十周年を迎えます。そして、陳川・三重桜・津高の同窓会が統合してちょうど五十周年の記念すべき年でもあります。

その区切りの年に幹事を務めさせていただくのは、学校群制度1期生である昭和52年卒と、平成最初の卒業生です。いよいよ同窓会実行委員会の中にも、平成の文字が刻まれることになり、新たな歴史の一步ともいえます。

楽部サニオールスターズの演奏で幕を開け、小柴副会長の乾杯のご発声の後、音楽をバックにご歓談となりました。今年のスタッフの印は「蝶ネクタイ」。運営委員会メンバーの手作りで、恥ずかしいような嬉しいような感じがありました。幹事学年によるお世話は、ご好評をいただいたものと信じております。

終盤は、次年度幹事学年のご挨拶の後、津中学校校歌・津高女子学校校歌・津高等学校校歌を斉唱し、総会・パーティーはお開きとなりました。

幹事学年として、至らぬ点も多々あったかと存じますが、同窓生の皆様のご協力により、無事総会・パーティーを終えることができました。ここに報告申し上げますとともに、皆様にお礼を申し上げます。

### 130周年記念事業申込みご案内

事業名	実施日	申込み先	締切日
ウォークラリー	4/11	同窓会事務局	2/28
ゴルフ大会	5/9	"	2/28
記念講演会	8/27	"	定員になり次第
母校の教壇	10/3	"	定員になり次第
経ヶ峰登山	10/17	"	7/31
美術展	8/3~8/8	飯田道嗣宛(S28年卒)	5/31
海外旅行	9/16~9/23	近畿日本ツーリスト四日市支店	5/31
国内旅行	11/18~11/19	J T B 津支店	7/31

事務局あての申込みはすべてハガキ、FAX及びメールでお願いします。

### 寄付

○三重櫻二十年卒(五年制)蘭組  
七月二十四日、学年を代表して、藤田いく・岡林禮子様より、現残高、壹拾萬円のご寄附をいただきました。

○津高二十七年卒  
八月七日、白井幹生様より、学年の現在の残高として、七萬円をご寄附いただきました。  
有効に使わせていただきます。  
ありがとうございました。

### 事務局だより

○会報四十七号を、二万五千五百部発行いたしました。  
○住所異動の際は、卒年・名前・住所をお書きの上、必ず事務局までお知らせください。  
葉書・FAX・メールにて受け付けております。

○事務局 月・火・水・金曜日  
午前九時十五分〜午後四時十五分  
お気軽にお立ち寄りください。

## 津高同窓会のホームページ

<http://tsuko.jp/>

メールアドレス  
[office@tsuko.jp](mailto:office@tsuko.jp)

TEL・FAX 059-229-7331